

主要産地における平成28年産水稲の生育状況等について 第8報 (7月15日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成28年7月15日)

道府県	区分	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)	
		生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)
北海道		<p>(全道) 生育は平年並 (遅2日)。草丈は40.9cmで平年よりやや短く、葉数は8.7枚で平年並、葉数は471本/m²で平年より少ない。(北海道農政課 7月1日現在)</p> <p>(石狩) 6月中旬から下旬前半までの日照不足により生育は停滞した。幼穂形成期は平年より遅れた。草丈は42.6cmで平年並、葉数は8.8枚で平年並、葉数は473本で平年並。(空知総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(空知) 6月中旬から下旬前半までの日照不足により生育は停滞した。幼穂形成期は平年より遅れた。草丈は42.6cmで平年並、葉数は8.8枚で平年並、葉数は473本で平年並。(空知総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(後志) 生育は平年より遅くなった。幼穂形成期は7月6日の見込み(遅2日)。草丈は35.1cmで平年よりやや短く、葉数は8.3枚で平年並、葉数は361本で平年より少ない。(後志総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(十勝) 生育は平年並(遅1日)。草丈は36.5cmで平年並、葉数は7.9枚で平年並、葉数は335.8本で平年よりやや少ない。(十勝総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(釧路) 生育は平年並(遅2日)。草丈は37.7cmで平年より短く、葉数は8.2枚で平年並、葉数は355.4本で平年より少ない。(釧路総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(根室) 6月後半の日照不足で生育が遅く、生育がやや停滞している(遅1日)。草丈は35.8cmで平年並、葉数は7.8枚で平年並、葉数は436本で平年より少ない。(根室総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(札幌) 最高気温が低く日照不足のため、葉数が少ない(遅5日)。草丈は35.1cmで平年より短く、葉数は8.1枚で平年よりやや少なく、葉数は350.9本で平年より少ない。(札幌総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(旭川) 生育は平年よりやや遅れて停滞している(遅4日)。草丈は42.4cmで平年より短く、葉数は9.0枚で平年並、葉数は63本で平年より少ない。(旭川総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(留萌) 6月の天候不順と日照不足により、生育がやや遅化し平年並になった(±0日)。草丈は43.7cmで平年並、葉数は8.9枚で平年並、葉数は452本で平年よりやや少ない。(留萌総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年並(遅1日)。草丈は41.9cmで平年並、葉数は7.1枚で平年よりやや少なく、葉数は328.7本で平年より少ない。(オホーツク総合振興局 7月1日現在)</p>	<p>7月のいもち病(葉いもち)の発生量ははや多いと予想。ウンカ類とアカヒゲホソドリカスミカメの発生量は平年並、ニカメイカ、イネドロオシム、フタオビコヤガの発生量ははや少ないと予想。(北海道病虫防除所 6月30日公表)</p>
青森		<p>(黒石) 7月10日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が51.1cmで平年より9.2cm短く、株当たり葉数は28.6本で平年より3.2本少なく、葉数は19.9葉で平年より0.6葉少なかった。穂首分化期の到達日は7月5日で平年より1日遅かった。また、「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が60.8cmで平年より2.1cm短く、株当たり葉数は25.7本で平年より5.8本少なく、葉数は9.7葉で平年並であった。穂首分化期の到達日は7月2日、幼穂形成期の到達日は7月10日で平年に前年より1日遅かった。</p> <p>(十和田) 7月10日現在の「まっしぐら」の生育状況は、草丈が63.1cmで平年より1.8cm短く、株当たり葉数は22.0本で平年より2.5本少なく、葉数は10.2葉で平年並であった。穂首分化期の到達日は6月27日、幼穂形成期の到達日は7月4日であるに平年より6日早かった。(青森県 7月11日付)</p> <p>(十和田) 7月10日現在の「まっしぐら」の生育状況は、草丈が51.1cmで平年より9.2cm短く、株当たり葉数は28.6本で平年より3.2本少なく、葉数は19.9葉で平年より0.6葉少なかった。「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が60.8cmで平年より2.1cm短く、株当たり葉数は25.7本で平年より5.8本少なく、葉数は9.7葉で平年並であった。穂首分化期の到達日は7月2日、幼穂形成期の到達日は7月10日で平年に前年より1日遅かった。(青森県産産技術センター-農林総合研究所 7月11日付)</p>	<p>7月中旬から下旬にかけて、斑点米カメムシ類の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>7月の葉いもち、稲こじ病ははや多いと予想。コバエイナゴははや少ない、斑点米カメムシ類(アカヒゲホソドリカスミカメ)はやや多い、フタオビコヤガはやや少ないと予想。(青森県病虫防除所 6月29日公表)</p> <p>イネミズノムシの発生は「やや多い」と予想(農林水産省 6月21日公表)</p>
岩手		<p>(生育) 7月3日時点の出穂予想 いわてっこ：(北上川上流) 7月31日～8月6日、(北部) 8月3～10日 みんじやしり：(北上川下流) 7月30日～8月7日、(東部) 8月7～20日 ひとめぼれ：(北上川上流) 8月5日～16日、(北上川下流) 8月8～11日、(東部) 8月6日～17日 (岩手県 7月12日付)</p> <p>7月5日現在、農業研究センター(北上)では、草丈は「ひとめぼれ」で平年を上回り、「あきたこまち」で平年並みとなっている。草丈は「ひとめぼれ」で平年並、「あきたこまち」で平年を下回っている。葉色(SPAD値)は「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも平年を上回っているが、平年と同様に低下し始めている。 東北農業研究所(軽米)の「いわてっこ」は、草丈、葉数、葉色(SPAD値)とも平年を下回っている。 (若手県農業研究センター 7月7日付)</p>	<p>7月上旬の水田畔畔すくい取り調査では、カスミカメシ類の発生圃場率、発生程度ともにほぼ平年並(若手県病虫防除所 7月14日公表)</p>
宮城		<p>(生育) 7月11日現在、県内生育調査ほのほとんどの地点で幼穂が確認され、幼穂長の平均は3.7mm(平年並+1.5mm)となり、幼穂形成期(県全体の平均)は7月7日頃と見込まれ、平年に比べて1日程早まっている。今後の気温が平年並か平年並より低かった場合、出穂期(県全体の平均)は8月2日頃になる見込みである。生育については、草丈が62.6cm(平年比103%)、株当たり葉数は52.6本(平年比94%)、葉数は10.9枚(平年比±0.1)であった。(宮城県 7月12日付)</p> <p>(大崎) 7月1日現在、草丈はほぼ平年並～やや長く、葉数は、北部平坦ササニシキ及び西部丘陵まなむすめ、山間部冷やまのりくは、平年を大きく上回っている。一方北部平坦及び西部丘陵のひとめぼれは、平年を下回っているが、前回の7月5日調査と比べて、回復傾向が見られる。葉数は、ほぼ平年並またはやや少ない傾向が見られる。葉色は、やや濃い傾向が見られる。ただし、北部平坦のササニシキは、平年に比べやや淡い。(大崎農業改良普及センター 7月1日付)</p> <p>(本吉) 7月1日現在、気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、平年と比較して、草丈は平年並、葉数は少なく、葉数は多く、葉色はやや濃くなっている。6月後半から7月期間に入った。葉数が平年より少ないのは、昨年から田植機が替ったことに伴い数値密度が変わった(少なくなった)ため。南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、草丈、葉数、葉色ともほぼ平年並。気仙沼の生育調査ほはまだ必要葉数に達していないが、管内の巡回調査から、管内の移水稲はおおむね必要葉数(約450本/m²)を確保したと思われる。生育は平年より2～3日進んでいると思われる。(本吉農業改良普及センター 7月1日付)</p> <p>(仙台) 7月1日現在、出穂は平年より1日程早まる見込み。(仙台農業改良普及センター 7月6日付)</p> <p>6月23日現在、湛水直播(5月中旬播種)では8～7葉展開期、葉数150本/m²程度で、ほ場により生育量にバラつきが多くみられる。乾田直播(4月中旬播種)では8葉展開期、葉数300本/m²程度で、概ね順調に生育が進んでいる。(仙台農業改良普及センター 7月1日付)</p> <p>(大河原) 6月20日現在の管内の生育調査ほの生育は、草丈、葉色、葉数などは、全般的に平年並みとなっている。葉数は平年より少ない傾向にあるが、平坦部では、概ね有効葉数に達している。湛水直播栽培の普及展示ほの生育は、草丈、葉数は平年を上回る生育。葉数もやや早い傾向で進んでいる。(大河原農業改良普及センター 6月20日付)</p> <p>(奥里) 6月20日現在、生育は概ね順調で、葉数からみると平年に比べて2～3日程度進んでいるとみられる。(奥里農業改良普及センター 6月23日付)</p> <p>(栗原) 草丈は平年並、葉数はやや少なく、葉数は平年より多く、葉色は平年を下回っています。幼穂形成始期は7月4～7日頃で、生育は平年より1～2日程早まっている。(栗原農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(登米) 平年に比べ草丈はやや長い(平年比96～108%)、葉数は平年並(平年比89～108%)、葉数は平年並(平年並±0.3葉)とやや少なくなっている。葉色はSPAD値で4.9(平年比99%)で平年並になっている。(7月8日付)(注：主葉10本平均)で、移植の生育調査ほ播種全てで幼穂の形成が確認された。(登米農業改良普及センター 7月14日付)</p> <p>(亶理) 6月10日現在、葉数は前年並み、草丈は前年より高くなる傾向がみられる。乾田直播栽培では、苗立ち率は良好で初期としては葉数も多く、葉数も進んでおり、移植時との生育の差は10日程度となっている。湛水直播栽培でも播種後の苗立ち率は高くなっている。(亶理農業改良普及センター 6月13日付)</p>	<p>7月下旬までの葉いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量ははや多く、稲こじ病の発生量は平年並と予想。斑点米カメムシ類(アカヒゲホソドリカスミカメ)の発生量は平年並と予想。(宮城県病虫防除所 7月7日公表)</p>
秋田		<p>(鹿角) 7月5日の定点調査では、草丈が49.8cm(平年比101%)で平年並、葉数は655本/m²(平年比106%)で多く、葉数が9.7葉(平年+0.3葉)とやや少なくなっている。葉色はSPAD値で4.9(平年比99%)で平年並になっている。(7月8日付)</p> <p>(山本) 7月5日現在の水稲生育調査ほ場(管内9地点)における生育状況は、草丈50.8cm(平年比101%)、葉数は513本/m²(平年比96%)、葉数は9.9(平年-0.1葉)、葉色41.8(平年比97%)となっている。(7月7日付)</p> <p>(秋田) 7月5日現在の生育調査ほ(あきたこまち、10地点平均)の草丈は54.3cm(平年比104%)で平年よりやや長く、m当たり葉数は550本(平年比95%)で平年より少なくなっている。葉数は10.9葉(平年並+0.2葉)で平年より多く、生育は平年よりやや遅くなっている。葉色(葉緑素計値)は41.2(平年比96%)で平年より遅くなっている。(7月8日付)</p> <p>(北秋田) 7月5日現在のあきたこまちは、草丈52.5cm(平年比102%)、葉数は532本/m²(平年比85%)、葉数は10.2葉(平年並-0.1)、葉数から見た生育は平年並みとなっており、葉色が平年より濃い状況。(7月8日付)</p> <p>(仙北) 7月5日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈50.6cm(平年比101%)、葉数は525本/m²(平年比98%)、葉数は9.9葉(平年+0.0葉)、葉色43.1(平年比101%)となっている。生育は概ね順調だが、ほ場間差が大きい状況。(7月8日付)</p> <p>(平鹿) 7月5日の水稲生育調査ほ(あきたこまち11か所)の結果では、草丈が48.9cm(平年比97%)、葉数は468本/m²(平年比91%)、葉数は10.1葉(平年比+0.3葉)、葉色44.6(平年比101%)となっている。(7月8日付)</p> <p>(雄勝) 7月5日の生育状況(あきたこまち管内8か所平均)は、草丈50.1cm(平年比102%)、葉数は464本/m²(平年比87%)、葉数は9.9枚(平年-0.1枚)、葉色44.8(平年比99%)となっている。生育の進み具合は平年並だが、葉数が少ない傾向。(7月8日付)</p> <p>(由利) 7月5日の水稲生育調査ほ(3品種・移植ほ8か所平均)によると、草丈は52.2cmで平年より長く(平年比106%)、m当たり葉数は534本で平年より少なく(平年比94%)、葉数は10.0葉で平年並(平年並-0.1葉)、草丈以外の生育はほ場間差が大きい状況(7月11日付)。(秋田県農林政策課)</p>	<p>7月中旬から下旬にかけて、斑点米カメムシ類の発生が多い予想(農林水産省 7月12日公表)</p> <p>7月の葉いもち、稲こじ病の発生量は平年並、紋枯病の発生量ははや少ないと予想。セジウウカ等の発生時期は早く、発生量ははや多いと予想。斑点米カメムシ類(アカヒゲホソドリカスミカメ)の発生量は多い、アカヒゲホソドリカスミカメの発生量ははや多いと予想。フタオビコヤガ、コバエイナゴの発生量ははや少ないと予想。(秋田県病虫防除所 7月1日公表)</p>

	生育状況等	同定及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
富山	<p>・生育観測ほぞデータ（7月12日現在） （コシヒカリ） 平年に比べ葉齢がやや遅んでおり、草丈はやや長く、莖数、葉色は、概ね平年並みに推移している。 出穂期は、平年より4日程度遅く7月31日頃と見込まれる。 （てんこもり） 平年に比べ、葉齢がかなり遅んでおり、草丈はやや長く、莖数、葉色は平年並みに推移している。 出穂期は、平年より7日程度遅く8月1日頃と見込まれる。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月12日付）</p> <p>（生育） ・直接情報（6月28日現在） 湛水土中直播栽培（カルパー）の生育は、平年に比べ、葉齢は進んでおり、草丈は長く、莖数はやや多く、葉色は平年並みとなっている。 湛水表面直播栽培（鉄）の生育は、近年に比べ、葉齢はやや遅んでおり、草丈はやや長く、莖数は多く、葉色はやや淡くなっている。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 6月28日付）</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の葉いもち、穂いもち、稲こじ病の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は多いと予想。 斑点米カメムシ類の発生量は、アカヒゲホリミドリカスミカメは多く、アカスジカスミカメ、トゲシロシカメムシは平年並の予想。 ニカメイガ（第2世代）の発生量はやや多く、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカの発生量は平年並、セジロウンカの発生量はやや多く、ネオアオムシ、イナゴの発生量は少ないと予想。 （富山県農林水産総合技術センター 7月1日公表）</p> <p>・紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 6月21日付）</p> <p>・注意報-斑点米カメムシ類の発生が県下全域で多いと予想（富山県農林水産総合技術センター 6月21日公表）</p>
石川	<p>（7月8日現在の生育状況） ・出穂期 ゆめぴろげは、近年に比べ加賀地域で2～4日程度、能登地域で6日程度早く、概ね平年並みの出穂期と予想される。 コシヒカリは、平年に比べ加賀地域、能登地域とも3～4日程度早くなり、加賀地域では概ね前年並、能登地域では前年より2日程度早まることを示される。 ・葉丈 コシヒカリは平年比107%とやや長く、ゆめぴろげは近年比107%とやや長い。 ・実当たり莖数 コシヒカリは平年比96%（加賀地域96%、能登地域96%）と並、ゆめぴろげは、近年比100%（加賀地域100%、能登地域100%）と並 ・葉色 コシヒカリの葉色は、前年並に低下しており、平年に比べやや淡い。 （石川県農林水産部農林総合研究センター 7月8日調査）</p> <p>（生育）</p>	<p>・7月中旬～8月上旬の葉いもち、紋枯病の発生量はやや多く、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予想。 （石川県農林総合技術センター 7月14日公表）</p>
福井	<p>（生育） ・後継のコシヒカリは7/10前後に幼穂形成期を迎えている。草丈はやや長く、莖数はやや少ない。 後継のハナネオダは出穂期を迎えており平年より4日程度遅い。 （水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日付）</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の葉いもち病、早中生葉いもちの発生量は平年並み、白葉枯病、紋枯病の発生量は平年よりやや多いと予想。 ニカメイガの発生量は平年より少なく（前年よりやや多い）、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、セジロウンカ、イネツトムシの発生量は平年並み（前年より多い）、イネアオムシの発生量は平年より少ない（前年より多い）と予想。 （福井県農業試験場 6月30日公表）</p> <p>・注意報-斑点米カメムシ類の発生量が平年より多い（前年よりやや少ない）と予想（福井県農業試験場 6月28日公表）</p> <p>・紋枯病の発生が「多い」と予想（農林水産省 6月21日付）</p>
長野	<p>（生育） ・7月1日現在、豊科定点圃場では草丈は平年並らやや長く、莖数はやや少ない傾向だが、最高分け時期で、畝間の見えにくいな莖数過剰の圃場も見られる。 6月30日現在、DVIによる生育進捗では、平年より2～3日早いと推定している。豊科定点圃場のあきたこまち は、予想より1日早い7月2日に幼穂形成期に入った。平年より4日早く、昨年と同日。早生種の出穂は平年より早まること予想される。 （松本農業改良普及センター）</p>	<p>・紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予想（農林水産省 6月21日付）</p> <p>・向こう1ヶ月間の葉いもち、穂葉枯病、黒葉萎縮病、ツマグロヨコバイ、イネトビウンカの発生量は平年並、ニカメイガ、イネアオムシの発生量はやや多く、イナゴの発生量は平年並～やや多いと予想（長野県病害虫防除所 6月15日公表）</p>
滋賀	<p>（生育） ・6月30日現在の草丈は、「コシヒカリ」、「秋の詩」とともに平年より長かった。莖数は、「コシヒカリ」が平年並（685本/m²）、「秋の詩」が平年よりやや少なかった（656本/m²）。葉数は、「コシヒカリ」が0.4枚、「秋の詩」が0.3枚平年より多かった。「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月2日で、平年より4日早かった。「コシヒカリ」の出穂期予想は、4月下旬～5月上旬移穂の場合は、7月10日前後の見込み。5月中旬移穂の場合は、7月25日前後の見込み。6月30日現在の莖数は、5月2日移穂で567本/m²、5月16日移穂で504本/m²。 （滋賀県農業技術普及センター 7月6日付）</p>	<p>・7月下旬以降、斑点米カメムシ類の発生は多い予想（滋賀県病害虫防除所 7月14日公表）</p> <p>・紋枯病の発生量はやや多く、葉いもち、白葉枯病の発生量は平年並の予想。 ニカメイガ（第2世代）、セジロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多く、イネモンジセリ、フタバオビコバヤの発生量はやや少ないと予想（滋賀県病害虫防除所 7月5日公表）</p>
兵庫	<p>（生育） ・6月28日現在、県北は葉齢は平年よりやや遅れが早い、草丈は短く、莖数は平年より少ない。県全体では、葉齢は平年より遅れが強い。草丈は平年並み。莖数は平年より少ない。 6月27日現在の予想は後継期は、北相平圃場（移穂日5/15）のコシヒカリで7月29日、県北山間部（移穂日5/10）のコシヒカリで8月4日、南相平圃場（移穂日5/20）コシヒカリで8月3日、県南相平圃場（移穂日6/1）のキヌヒカリで8月9日、淡路平圃場（移穂日6/20）キヌヒカリで8月19日。 （兵庫県農政環境部 7月4日付）</p>	<p>・ヒメトビウンカの発生が「やや多い」と予想（農林水産省 6月21日付）</p> <p>・6月の葉いもちの発生量は平年並、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、トビロウンカの発生量はやや多いとの予想（兵庫県病害虫防除所 6月2日公表）</p>
岡山		<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の葉いもち、穂いもち、紋枯病の発生量はやや多く、穂葉枯病の発生量は平年並、ヒメトビウンカとツマグロヨコバイの発生量はやや多く、ニカメイガ、セジロウンカ、トビロウンカの発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は少ないと予想</p>
広島		<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病、セジロウンカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月中～下旬の葉いもちの発生は北中部でやや多く、南部で平年並、セジロウンカは全域でやや多く、斑点米カメムシ類は少ないと予想（広島県西部農業技術指導所 7月11日公表）</p>
山口	<p>（生育） ・各品種とも、おおむね過去の平均と同程度の生育状況となっている。5月中旬までに移植したコシヒカリ等では、概ね最高分け時期となった。曇雨天、深水等の影響で、葉が長く葉姿が乱れ、莖数がやや少ないほ場もみられる。コシヒカリ、ひとめづれのほ場は、5月上旬移穂で7月29日頃、5月下旬移穂で8月3日頃と予想。 （山長門大津、長門農林事務所農業部 7月1日付）</p>	<p>・7月中～下旬、県内全域で葉いもちの発生が多い予想（山口県 7月16日公表）</p> <p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病、セジロウンカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月のいもち病（葉いもち）の発生量は多く、紋枯病の発生量は平年並、ヒメトビウンカ（穂葉枯病）の発生量はやや少ないと予想。セジロウンカの発生量は多く、トビロウンカ、コノメイガ、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想。</p>
愛媛	<p>（田植） ・早期栽培のコシヒカリ、あきたこまちは穂肥の時期にあたる。早期栽培は、幼穂形成から出穂・開花期を迎える。水を必要とする時期であるため、やや深みに湛水しきめ細かい水管理を行うよう指導。普通期水稲は、多雨が予想されるため湛水管理を基本とし、畝の健全化を図るよう指導。 （愛媛県農林水産研究所 7月1日付）</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月のいもち病（普通期栽培：葉いもち、早期栽培：葉いもち・穂いもち）の発生量はやや多～多く、紋枯病、セジロウンカの発生量は平年並、コノメイガはやや少～平年並、イネツトムシ第2世代は平年並～やや多、斑点米カメムシ類（早期・早穂栽培）はやや多いと予想。 （愛媛県病害虫防除所 6月30日公表）</p>
高知	<p>（生育） ・早期水稲（6月17日現在） 最高分け時期は、「南国そだち」がやや早く、「コシヒカリ」は平年並み。同期における草丈は、「南国そだち」が平年並み、「コシヒカリ」はやや長くなっている。葉数は、「南国そだち」が少なく、4月5日植えた「コシヒカリ」は平年並み、4月14日植えた「コシヒカリ」が少なくなっている。 出穂期は、4月5日植えた「南国そだち」は6月16日。また、幼穂形成期後日数より推定した「コシヒカリ」の出穂期は、4月5日植えて6月26日、4月14日植えて7月2日となっている。いずれの品種、作型とも平年より4～7日早くなる模様。 ・普通期水稲（6月17日現在） 6月3日植えた「ヒノヒカリ」は、草丈は平年並みで、莖数が平年よりやや少なめ、葉齢で見た生育進捗は平年並み。 （高知県農業技術センター 6月22日付）</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の早期栽培は、いもち病（穂いもち）の発生量は平年並、ツマグロヨコバイの発生量は県中央部で多く、県東部でやや多いと予想。セジロウンカはやや少（県下全域）、ヒメトビウンカは県中央部で多いと予想。 普通期栽培は、いもち病（葉いもち）は県東部と県中部で多く、ツマグロヨコバイは県東部と県中央部で多く、県中部でやや多いと予想。セジロウンカは県中部と県中部で多く、ヒメトビウンカは県東部と県中央部で多いと予想。 （高知県病害虫防除所 7月5日公表）</p> <p>・注意報-いねいもち病（葉いもち、穂いもち） 発生地域は県内全域で発生時期は6月下旬以降（高知県病害虫防除所 6月30日公表）</p>
福岡	<p>（田植） ・早期水稲（夢つくし、コシヒカリ） 白え時期は平年並みで7月1日には終了している。田植後の高温より初期生育は順調。 ・普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ） 苗の生育は順調。高温対策のため田植は「夢つくし」が6月上旬中、「元気つくし」は6月中旬、「ヒノヒカリ」が6月下旬を中心に行われる見込み。 （福岡県農林総合試験場 平成28年5月16日専技情報より抜粋）</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、セジロウンカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月セジロウンカの発生量はやや多く、トビロウンカの発生量は平年並の予想。 （福岡県病害虫防除所 7月1日）</p>
熊本		<p>・7月の早期水稲の穂いもちの発生量は平年と比べやや多いと予想。早穂栽培水稲の葉いもち、普通期水稲の葉いもちの発生量は平年並、早穂栽培・普通期水稲のセジロウンカの発生量は平年並の予想。 （熊本県病害虫防除所 6月30日公表）</p>

生育状況等		向及及び無知事項に対する自治体等公表資料等（注釈）
宮 崎	<p>・早期米生育状況（6月下旬） 幼穂形成期～出穂期を迎えている。平年より4日早い進度。6月以降も平年に比べ、気温が高くなったため、生育が早く進んでいる。草丈は平年に比べて高く、莖数や葉齢はほぼ平年並みとなっているが、概ね順調に生育している。 (JA宮崎経済連ホームページ「平成28年度早期米生育状況」7月7日付)</p> <p>・早期水稲 6月15日現在の生育ステージ (県全体) 穂ばらみ期～出穂期を迎えている。平年よりも早い進度。平均気温は平年より高く、降水量は平年より少なくなっている。草丈は平年よりやや高く、莖数や葉齢はほぼ平年並みとなっている。出穂最盛期は6月20日頃と予想されている。 (中部地区) 穂ばらみ期～出穂期。平年より4日早い進度。草丈が平年よりやや高く、莖数や葉齢はほぼ平年並み。一部のほ場では、6月10日に出穂が確認された。出穂始期は6月19日頃、出穂最盛期は6月22日頃と予想される。 (南那珂地区) 穂ばらみ期～出穂期。平年より8日程早い進度。6月に入っても高温に推移したことから生育が進んでいる。出穂始期は平年より5日早い6月12日となり、最盛期は平年より8日早い6月15日となっている。 (児湯地区) 幼穂形成期～穂ばらみ期。平年より2日早い進度。西都町や木城町を中心とする移植が早い地域では13～15日を中心し、ほ場で出穂期に入りつつある。 (東臼杵南部地区) 減収分収期～穂ばらみ期。平年より5日程早い進度。草丈は平年より高く、莖数は平年並みとなっている。幼穂長は管内平均が14.3cmとなっており、生育の早いところでは走り穂が見られている。 (JA宮崎経済連ホームページ「宮崎県産早期米産地情報」7月7日付)</p>	<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病、セジロウンカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・早期水稲 病害虫の発生量の平年比は、葉いもちはやや多く、紋枯病は平年並、ツマグロコバイはやや少く、セジロウンカはやや多く、ヒメトビウンカと斑点米カメムシ類はやや多く、ヒメトビウンカは平年並の予報。</p> <p>・普通期水稲 病害虫の発生量の平年比は、葉いもちはやや多く、ツマグロコバイ、セジロウンカ、ヒメトビウンカは平年並、スクミリンゴガイの発生量はやや少ないと予報。 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月24日公表)</p>
鹿 児 島		<p>・7月中旬から向こう1カ月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の早期水稲のいもち病（穂いもち）の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予報。 普通期水稲のいもち病（葉いもち）の発生量はやや多いと予報。 (鹿児島県病害虫防除所 6月29日公表)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 27年産	作況指数 27年産
		平成28年産	前年産との比較	増減率	自主的取組参考値（深緑）		
		t	t	%	t		
全 国	<ul style="list-style-type: none"> 7月16日～8月15日の1か月間は、向こう1か月の日照時間は北・東日本太平洋側では少なく、北・東日本日本海側と西日本でも平年並か少ない。また、向こう1か月の降水量は、北・西日本で平年並か多い見込み（気象庁 7月14日発表） 2014年夏に発生したエルニーニョ現象は、2016年春に終息したとみられる。今後、夏の間にはラニーニャ現象が発生し、秋にかけて続く可能性が高い。インド洋熱帯域の海面水温は基準値より高い値が続いており、今後秋にかけて次第に基準値に近づくと予測される。（気象庁 地球環境・海洋部 6月10日発表） （7～9月の3か月間の見直し） 向こう3か月の気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高く、北日本では平年並か高い見込み。北日本と東日本日本海側では、向こう3か月の降水量は平年並か多い見込み。7月は、北日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。東日本太平洋側と西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く期間の後半は平年と同様に晴れの日が多い見込み。8月は、北日本では、天気は数日の周期で変わり、東・西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。9月は、北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。（気象庁 6月24日発表） 	7,430,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,350,000	7,442,000	104
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の7月16日～8月15日期間の前半は日本海側・オホーツク海側で気温が低く、向こう1か月の降水量は平年並か多い見込み。日照時間は日本海側で平年並か少なく、オホーツク海側・太平洋側で少ない見込み。（札幌管区気象台 7月14日発表） 「高温に関する異常天候早期警戒情報」北海道地方では、7月9日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。（7日平均地域平年差+2.1℃以上）（札幌管区気象台 7月4日発表） 	541,500	▲ 5,830	▲ 1.1	535,669	559,600	104
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の7月16日～8月15日の1か月間は、期間前半は気温がかなり低くなる可能性がある。向こう1か月の気温も低い見込み。降水量は多く、日照時間は、東北日本海側で平年並か少なく、東北太平洋側で少ない見込み。（仙台管区気象台 7月14日発表） 7月19日頃からの約1週間は、東北地方で、平年よりかなりの低温（7日平均地域平年差-3.2℃以下）となる見込み。（仙台管区気象台 7月14日発表） 	239,877	▲ 2,583	▲ 1.1	237,294	229,800	105
岩 手	同上（仙台管区気象台）	268,321	▲ 2,889	▲ 1.1	265,432	269,400	105
宮 城	同上（仙台管区気象台）	344,906	▲ 3,714	▲ 1.1	341,193	348,400	103
秋 田	同上（仙台管区気象台）	413,092	▲ 4,448	▲ 1.1	408,644	419,400	103
山 形	同上（仙台管区気象台）	340,830	▲ 3,670	▲ 1.1	337,160	354,300	103
福 島	同上（仙台管区気象台）	335,933	▲ 3,617	▲ 1.1	332,316	342,600	101
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月16日～8月15日の1か月間は、気温は平年並、日照時間は少なく、少雨の状況が続く所がある見込み（気象庁 7月14日発表） 農業用水で、鬼怒川、利根川、江戸川、神流側では10%取水制限中。渡良瀬川では20%取水制限中。（国土交通省 6月27日現在） 	333,776	▲ 3,594	▲ 1.1	330,182	345,400	96
栃 木	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省 6月27日現在） 	295,508	▲ 3,182	▲ 1.1	292,326	287,300	98
埼 玉	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省 6月27日現在） 	149,659	▲ 1,611	▲ 1.1	148,047	152,200	97
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> 同上（気象庁） 同上（国土交通省 6月27日現在） 	243,864	▲ 2,626	▲ 1.1	241,239	297,500	101
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の7月16日～8月15日の1か月間は、気温と降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込み。（新潟地方気象台 7月14日発表） 	515,737	▲ 5,553	▲ 1.1	510,184	539,600	97
富 山	同上（新潟地方気象台）	183,672	▲ 1,978	▲ 1.1	181,695	191,200	103
石 川	同上（新潟地方気象台）	122,313	▲ 1,317	▲ 1.1	120,996	123,200	101

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	t	%	t	t	t
福井	同上（新潟地方気象台）						
長野	・関東甲信地方の7月16日～8月15日の1か月間は、気温は平年並、日照時間は少なく、少雨の状態が続く所がある見込み。（気象庁 7月14日発表）	124,124	▲ 1,336	▲ 1.1	122,787	123,800	99
滋賀	・近畿地方の7月16日～8月15日の1か月間は、気温は平年並、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（大阪管区気象台 7月14日発表）	191,933	▲ 2,067	▲ 1.1	189,867	194,500	97
兵庫	同上（大阪管区気象台）	158,741	▲ 1,709	▲ 1.1	157,032	158,500	100
岡山	・中国地方の7月16日～8月15日の1か月間は、1週目の気温は平年並みか低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（広島地方気象台 7月14日発表）	178,518	▲ 1,922	▲ 1.1	176,596	178,900	99
広島	同上（広島地方気象台）	156,861	▲ 1,689	▲ 1.1	155,172	149,500	96
山口	・九州北部地方（山口県含む）の7月16日～8月15日の1か月間は、気温は平年並か低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（福岡管区気象台 7月14日発表）	128,585	▲ 1,385	▲ 1.1	127,201	121,700	96
愛媛	・四国地方の7月16日～8月15日の1か月間は、気温は平年並が高く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（高松地方気象台 7月14日発表）	107,601	▲ 1,159	▲ 1.1	106,443	100,700	97
高知	同上（高松地方気象台）	73,133	▲ 787	▲ 1.1	72,345	71,200	98
福岡	・九州北部地方（山口県含む）の7月16日～8月15日の1か月間は、気温は平年並か低く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（福岡管区気象台 7月14日発表）	49,537	▲ 533	▲ 1.1	49,003	52,800	96
熊本	同上（福岡管区気象台）	180,526	▲ 1,944	▲ 1.1	178,582	172,300	95
宮崎	・九州南部地方の7月15日～8月16日の1か月間は、気温は平年並が高く、降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（鹿児島地方気象台 7月14日発表）	187,293	▲ 2,017	▲ 1.1	185,277	171,500	97
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台）	92,603	▲ 997	▲ 1.1	91,606	74,700	93
		109,887	▲ 1,183	▲ 1.1	108,704	95,700	95

参考資料:

平成28年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)
平成27年度産水陸稲の収穫量(農林水産省)
平成28年度病害虫発生予報第4号(農林水産省)

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道 7月7日)、農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月7日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月7日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月7日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月7日)、農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月7日)
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月7日)、
病害虫発生予察情報第6号7月予報(北海道病害虫防除所 6月30日)、
H28水稲作況(6月30日現在)(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月1日)、稲作生産情報第5号(青森県 7月5日)、
平成28年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(青森県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度水稲生育定期調査結果No.4(7月5日現在)(岩手県農業研究センター 7月7日)、農作物技術情報第4号水稲(岩手県 6月30日)、
平成28年度農作物病害虫防除速報No.水稲編-3(岩手県病害虫防除所 7月14日)、平成28年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(7月予報)(岩手県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度水稲の生育状況について(7月11日現在)(宮城県農林水産部 7月12日)、平成28年度発生予察情報発生予報第6号-水稲-(宮城県病害虫防除所 7月7日)、
仙台直播情報平成28年度版第1号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月1日)、仙台稲作情報第3号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月14日)、
平成28年度稲作情報第2号(宮城県亶理農業改良普及センター 6月13日)、
平成28年度大崎稲作情報第3-2号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月1日)、平成28年度産南稲作情報(第3号)(宮城県大河原農業改良普及センター 6月28日)、
稲作情報Vol.4(本吉農業改良普及センター 7月4日)、栗原の稲作通信平成28年度第5号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月13日)、
登米地域の稲作通信第6号(宮城県登米農業改良普及センター 7月13日付)、平成28年度産美里地区の稲作情報第3号(宮城県美里農業改良普及センター 6月23日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月12日)、
平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所 7月1日)、
米づくり技術情報NO.5(オールやまがた米づくり日本一運動本部 県産米ブランド推進課 7月1日)、
稲作だより第6号穂肥特集号(村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日)、
酒田・飽海日本一米づくり情報第8号・酒田飽海つや姫情報第6号(酒田農業技術普及課 7月12日)、
稲作だより第6号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、つや姫だより第4号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、
おいしい米づくり情報第7号(村山総合支庁農業技術普及課 7月5日)、つや姫通信第4号(村山総合支庁農業技術普及課 7月12日)、
平成28年第1号おきたまつや姫だより(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、おきたまつや姫だより情報No.6(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、
稲作だより第8号穂肥編(最上総合支庁農業技術普及課 7月4日)、稲作だより第7号本田初期編(最上総合支庁農業技術普及課 6月24日)、
おいしい米づくり情報第8号(庄内総合支庁農業技術普及課 6月22日)、
水稲直播情報第3号(庄内総合支庁農業技術普及課 6月14日)、
平成28年度農作物有害動物発生予察情報発生予報第4号(7月)(山形県病害虫防除所 6月29日)、
主要な農作物の生育情報平成28年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、平成28年度病害虫発生予察情報発生予報第3号(6月)(福島県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度病害虫発生予察情報注意報第3号(福島県病害虫防除所 6月29日)、
農研速報(水稲の生育状況)(7月11日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 7月4日)、(7月11日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 7月13日)、
病害虫発生予察注意報第1号(茨城県病害虫防除所 6月9日)、
病害虫発生予報7月号(茨城県病害虫防除所 7月4日)、平成28年度病害虫発生予報第2号(栃木県農業環境指導センター 5月20日)、
平成28年度病害虫発生予察注意報第1号・植物防疫ニュース(速報No.3)(栃木県農業環境指導センター 6月1日)、
平成28年度水稲生育診断予測事業速報No.3(栃木県農政部 6月24日)、平成28年度病害虫発生予報第3号(栃木県農業環境指導センター 6月17日)、
河内管内水稲技術情報7月号(栃木県河内農業振興事務所)
平成28年度水稲の生育概況Vol.2(埼玉県農業技術研究センター 7月7日)、
平成28年度病害虫発生予報第3号(7月予報)(埼玉県病害虫防除所 6月29日)、水稲の生育状況と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 6月28日)、
平成28年度病害虫発生情報第1号(千葉県農林総合研究センター 6月9日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(千葉県病害虫防除所 7月7日)、
平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(千葉県農林総合研究センター 7月1日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第5号)(新潟県農林水産部 7月12日)、
岩船米生育速報(7月11日現在)(村上農業普及指導センター)、稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月11日)
新発田地域水稲生育速報No.5(新発田農業普及指導センター 7月11日)、稲作技術情報No.5・水稲生育速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月12日)
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月30日)、南魚沼地域水稲生育速報4(南魚沼農業普及指導センター 7月12日)、
稲作管理情報5(柏崎農業普及指導センター 7月11日)、平成28年上越地域水稲生育速報(6月30日)(上越農業普及指導センター 6月30日)、
アグリオ7月号(糸魚川地域農林振興部)、平成28年度稲作生育速報No.3(佐渡農業普及指導センター 6月20日)、
売れる米づくり技術対策資料 No.3(新潟農業普及指導センター 6月23日)、新潟稲作速報No.3(新潟農業普及指導センター 6月20日)、
水稲生育速報(巻農業普及指導センター 6月20日)、
号外FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 6月24日)、FAX稲作速報No.9(三条農業普及指導センター 7月12日)、
平成28年度「上越地域米」栽培技術情報 No.5(上越農業普及指導センター 6月22日)、
稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月12日付)、平成28年度病害虫発生予察情報・注意報第1号(新潟県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号(7月後半の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月15日)、
TACS情報第7号(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月12日)、直播情報(第4号)(富山県農業技術課 広域普及指導センター 6月28日)、
病害虫発生注意報第1号(富山県農林水産総合技術センター 6月21日)、病害虫発生予報第4号(富山県農林水産総合技術センター 7月1日)、
平成28年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 6月30日)、
病害虫発生予報第4号・注意報第1号(石川県農林総合研究センター 7月14日)、
病害虫発生予報第4号・注意報第1号(石川県農林総合研究センター 7月14日)、
稲作情報No.11(福井県 水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日)、平成28年農作物病害虫発生予察予報第5号(福井県農業試験場 6月30日)、
平成28年農作物病害虫発生予察注意報第1号(福井県農業試験場 6月28日)、
平成28年作物技術普及情報第10号(松本農業改良普及センター)、
稲作ワンポイントアドバイス(No1)(JA長門大津、長門農林事務所農薬部 6月11日)、
病害虫発生予報第3号(長野県病害虫防除所 6月15日)、
平成28年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月6日)、平成28年病害虫発生予報第6号(滋賀県病害虫防除所 7月5日)、
病害虫発生予察注意報第3号(滋賀県病害虫防除所 7月14日)
平成28年度兵庫県農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県農政環境部 7月4日)、平成28年度病害虫発生予察予報第2号(兵庫県病害虫防除所 6月2日)、
広島県病害虫発生予察情報予報第3号(水稲)(広島県西部農業技術指導センター 7月11日)
平成28年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 6月30日)、稲作ワンポイントアドバイス(No3)(JA長門大津、長門農林事務所農薬部 7月1日)、
平成28年度農作物病害虫発生予察技術資料第2号(山口県病害虫防除所 6月20日)、農作物病害虫発生予報7月(山口県病害虫防除所 7月1日)、
農作物病害虫発生予察注意報第2号(山口県 7月15日)、
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県農林水産研究所 7月1日)、病害虫発生予報(7月)(愛媛県病害虫防除所 6月30日)、
平成28年度における水稲の生育状況(6月17日時点)(高知県農業技術センター 6月22日)、
平成28年度病害虫発生予察予報第4号(7月)(高知県病害虫防除所 7月5日)、平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(高知県病害虫防除所 6月30日)、
平成28年度病害虫発生予報第4号(7月)(福岡県病害虫防除所 7月1日)、
福岡県の主な農作物の生産状況(福岡県農林業総合試験場 4月15日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(熊本県病害虫防除所 6月30日)、
平成28年度産宮崎産早期米産地情報(平成28年6月15日現在)、平成28年度産早期米生育状況(宮崎経済連ホームページ<http://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html> 7月7日)、
平成28年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月24日)、平成28年度病害虫発生予報4号(7月)(鹿児島県病害虫防除所 6月29日)、
平成28年度技術情報第7号(鹿児島県病害虫防除所 6月6日)

北海道地方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、
北陸地方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方向こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、
四国地方向こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)
異常天候早期警戒情報(気象庁 7月14日)、エルニーニョ監視速報(No.285)(気象庁地球環境・海洋部 6月10日)
平成28年度渇水状況について(6月27日0時現在)(国土交通省 平成28年 6月27日)